

# 平成 27 年度 地域活性化総合特別区域評価書【正】

作成主体の名称： 奈良県

## 1 地域活性化総合特別区域の名称

奈良公園観光地域活性化総合特区

## 2 総合特区計画の状況

### ①総合特区計画の概要

奈良公園の資源を更に維持・利活用することにより、十分に奈良公園の魅力を発信させ、世界中の方に奈良公園を訪れたいと思わせるよう工夫するとともに、特区通訳案内士制度等の規制の特例措置や金融上の支援等を活用しながら、外国人観光客や宿泊客の受入環境を充実させ、滞在型観光の推進に係る取組を行う。

### ②総合特区計画の目指す目標

○奈良公園の資源の「維持」・「利活用」による観光の振興

○受入環境の充実による滞在型観光の推進

豊富な歴史・文化資源や自然資源を更に維持・利活用することにより、十分に奈良公園の魅力を発信させ、世界中の方が奈良公園を訪れたいと思ってくれるよう工夫するとともに、観光客の受け入れ環境を充実させることにより、実際に奈良公園の魅力を体感し、満足してもらえる環境を整え、日本にとどまらず世界中からの観光客で賑わう「世界に誇れる公園」とすることで「地域の活性化」を目指すものである。

### ③総合特区計画の指定時期及び認定時期

平成 25 年 9 月 13 日 指定

平成 26 年 6 月 27 日 認定

## 3 目標に向けた取組の進捗に関する評価（別紙 1）

### ① 評価指標及び留保条件

評価指標（1）：奈良市の観光入込客数の増加≪代替指標による評価≫ [進捗度 93%]

数値目標（1）：1,314 万人（H23 年） → 1,842 万人（H30 年）

代替指標（1）：奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数

814 万人（H23 年） → 1,142 万人（H30 年）

[平成 27 年目標値 1,001 万人、平成 27 年実績値 934 万人、進捗度 93%]

評価指標（2）：奈良市の宿泊者数の増加≪代替指標による評価≫ [進捗度 104%]

数値目標（2）：136 万人（H23 年） → 196 万人（H30 年）

代替指標（2）：奈良市の宿泊客数【観光庁統計・宿泊旅行統計調査】

115 万人（H23 年） → 166 万人（H30 年）

[平成 27 年目標値 144 万人、平成 27 年実績値 150 万人、進捗度 104%]

評価指標（3）：奈良市の観光消費額の増加《代替指標による評価》

数値目標（3）：1, 172億円（H23年） → 1, 655億円（H30年）

代替指標（3）：【代替】奈良市の観光消費額 [進捗度126%]

785億円（H23年） → 1, 109億円（H30年）

[平成27年目標値970億円、平成27年実績値1, 227億円、進捗度126%]

② 寄与度の考え方：該当なし

③ 総合特区として実現しようとする目標（数値目標を含む）の達成に、特区で実施する各事業が連携することにより与える効果及び道筋

・特別天然記念物の春日山原始林や天然記念物の奈良のシカ、奈良公園周辺の眺望・景観等の自然資源、史跡や伝統的行催事等の歴史・文化資源、数多くの公園施設等の公園資源の維持・利活用による観光振興を推進し、「観光入込客数の増加」を図る。

・宿泊施設の改修支援や奈良公園の魅力発信を行い、奈良に精通した特区通訳案内士の導入等、外国人宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光を推進し、「宿泊客数の増加」を図る。

・奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に取り組み、更に燈花会等のイベントにおける飲食・物品販売の強化等により「観光消費額の増加」を推進し、「地域の活性化」を目指す。

④ 目標達成に向けた実施スケジュール（別紙1-2）

各数値目標については概ね順調に推移しており、本特区の目標達成に向け、今後も引き続き規制の特例や金融支援措置を活用し、地域独自の取組を一体的に進める。詳細については、別紙「実施スケジュール」を参照。

■規制の特例：

・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業

今後も引き続き研修を実施し、目標である平成30年までに100人の特区通訳案内士を育成することを目指し、外国人観光客の受入環境の充実を図る。

■利子補給金：

・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用による宿泊施設の改修の支援

平成26年6月27日に計画認定を受け、総合特区支援利子補給金支給金融機関についても平成26年11月28日に指定され、制度を活用できる環境が整った。平成27年度は1件の金融支援措置を行った。現在も金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き制度の活用に向けて積極的な周知活動等を図り、宿泊客の受入環境の充実を図る。

■主な地域独自の取組：

・奈良公園の植栽の適切な管理

・春日山原始林の保全

・天然記念物奈良のシカの保護・育成に向けた取り組みの実施

- ・鹿苑の整備
- ・電線地中化の整備
- ・なら燈花会等誘客イベントの実施
- ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンの実施
- ・多言語コールセンター

#### 4 規制緩和を活用した事業の実績及び自己評価（別紙2）

##### ■特定地域活性化事業：（H26:18名→H27:32名）

##### ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業（通訳案内士法）

平成26年6月27日に特区通訳案内士の計画認定を受け、育成事業を進めた結果、32名（平成28年3月31日現在）が登録された。特区通訳案内士の増加により、外国人観光客の受入環境の充実がより図られたところである。

#### 5 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（別紙3）

##### ■金融支援（利子補給金）：（H26:0件→H27:1件）

平成26年6月27日に利子補給制度が計画認定を受け、平成26年11月28日に株式会社南都銀行が総合特区支援利子補給金支給金融機関として指定された。宿泊客の受入環境の充実に向け、当該制度の積極的な周知等に取り組んでいる。主に本利子補給制度の対象になると考えられる特区内での大型案件については、平成27年度は1件の金融支援措置を行った。今後も、金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き開業等に向けて事業者を支援するとともに、当該制度の積極的な活用を図る。なお、中小企業者等の中・小規模案件は、これまで県独自の融資制度の利用が中心となっていたが、本利子補給制度も加え選択肢が広がったことにより、更なる促進を見込んでいる。

#### 6 地域独自の取組の状況及び自己評価（別紙4）

（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

##### ■財政・税制・金融上の支援措置

##### ・創業支援資金

宿泊施設を創業する事業者が無利子、無担保で融資を受けられる制度で、「奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金」の「利子」「保証料」を撤廃した融資制度となっており、平成27年度は1件の融資を行った。

##### ・宿泊施設の新設、増設にかかる優遇税制

規模や定員等の一定要件を満たした宿泊施設の新設もしくは増設した事業者に対し、不動産取得税や事業税を軽減する制度で、平成27年度は1件の適用実績があった。今後も近年中に対象規模の立地が複数件予定されていることから、本制度の更なる適用を見込んでいる。

##### ・奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金利子補給金

開業や施設改修を行う事業者が低利で融資を受け、特に宿泊施設については、支払利子を更にキャッシュバックすることで、実質無利子で融資を受けられる制度となっ

ている。平成27年度は、特区区域内の宿泊施設5件が当該制度を活用して施設改修を行い、宿泊施設の魅力向上を図った。

## ■規制緩和・強化等

### ・宿泊施設事業者へのアドバイス

公益財団法人奈良県地域産業振興センターにより、宿泊施設の創業、開業に伴う事業計画の策定や経営課題の解決支援として、経験豊かな専門家のアドバイスを受けることができる「よろず支援拠点」や「専門家派遣制度」を設けており、事業者が抱える専門的な課題にも対応できるように取り組んでいる。平成27年度については、よろず支援拠点は67件（10社）、専門家派遣制度は3件（2社）の利用実績（相談対応件数は70件）があり、事業者が抱える課題の解決が図られるよう、引き続き積極的に支援していきたい。

## ■奈良公園の資源の「維持」に関する取組

### ・奈良公園の植栽の適切な管理

平成27年度は、奈良公園植栽計画検討委員会を2回開催し、「庭園植栽ゾーン（奈良春日野国際フォーラム）」の植栽計画を策定した。また過年度に植栽計画を策定した「クロマツ疎林ゾーン」の一部において、植栽整備工事を実施した。

### ・春日山原始林の保全

平成27年度は、春日山原始林保全計画検討委員会を2回開催し、春日山原始林保全計画をとりまとめた。あわせて実証実験として、植生保護柵20箇所（過年度計32箇所）の設置とモニタリング、隣接する人工林での檜皮採取実験を実施した。また後継樹育成の最初のステップとなる種子採取・播種作業の試行に着手した。

### ・天然記念奈良のシカの保護・育成に向けた取り組みの実施

平成27年度は、奈良のシカ保護管理計画検討委員会を開催し、奈良のシカの保護管理計画の策定にあたって、地域に応じた保護・管理対策の検討を行った。また緊急課題への対策として、農林業被害対策にかかる取り組みの検討を行った。

## ■奈良公園の資源の「利活用」に関する取組

### ・Wi-Fi環境の整備

JR奈良駅及び近鉄奈良駅から奈良公園に至る主要道線上や主要施設において、平成27年4月1日よりサービスの提供を開始した。

### ・電線地中化の整備

県庁東～大仏殿交差点において、全線の管路整備及び北側歩道の整備が平成28年4月21日に完成予定である。

### ・鹿苑の整備

鹿苑周辺の外周柵整備工事に着手し、平成28年1月に完成した。

## 7 総合評価

平成27年度は、平成26年度同様「奈良公園基本戦略」に基づく奈良公園の資源の維持・利活用に係る取組を着実に実施した。平成26年度に計画認定を受けた特区通訳案内士は、登録者数が32名までに増加しており、利子補給金制度については、平成27年度に1件の融資があった。また県独自で取り組んでいる支援措置や規制緩和・調整等についても、利用実績が確実に増加している。

今後も、平成27年3月から平成28年11月にかけて行われている春日大社の式年造替を契機として、更なる奈良公園の“資源の「維持」・「利活用」”による観光振興に係る取組や、受入環境充実による滞在型観光促進に係る取組を引き続き推進していきたい。

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標(1) 奈良市の観光入込客数	代替指標(1) 奈良市の主要観光施設・ 行祭事等観光入込客数 数値目標(1) 814万人 → 1,142万人 (H23) (H30)	目標値			955 万人	1,001 万人	1,048 万人	1,095万人	1,142万人
		実績値	825 万人	793 万人	874 万人	882 万人	934 万人		
	寄与度(※):-(%)	進捗度 (%)				92%	93%		
	代替指標の考え方または定性的 評価 ※数値目標の実績に代えて代替 指標または定性的な評価を用いる 場合		正規の評価指標である「奈良市の観光入込客数」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査に基づくものであり、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」による事後評価を行うこととする。認定計画書に記載した数値目標は本特区の目標である「観光の振興」の達成状況を測るための指標として、「奈良市の観光入込客数」の当年実績を把握するものである。代替指標の「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」は「奈良市の観光入込客数」に代えて「観光の振興」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。						
目標達成の考え方及び目標達成 に向けた主な取組、関連事業		<b>■目標達成の考え方</b> ・奈良公園の自然、歴史・文化、公園資源の「維持」・「利活用」を行い、観光振興を目指す。 <b>■目標達成に向けた主な取組:</b> ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全 ・平成27、28年に実施される春日大社の式年造替、平成30年の興福寺中金堂落慶を契機とした社寺等との連携による誘客キャンペーンの展開 ・官民が連携した継続的な誘客イベントの開催、誘客キャンペーンの実施							
各年度の目標設定の考え方や数 値の根拠等		代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率(実績値)の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。							
進捗状況に係る自己評価(進捗が 遅れている場合は要因分析)及び 次年度以降の取組の方向性		<b>■平成27年度の主な取組状況</b> ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全、春日大社式年造替に向けた誘客キャンペーン等を着実に実施している。 ・奈良市の観光入込客数については、目標値を下回ったものの、実績値の伸び率が目標値の伸び率を1%上回り、進捗度でも1%上昇している。このことから、順調に取組の効果が得られていると判断できる。 <b>■今後の方向性</b> ・以上の結果も踏まえ、今後は文化財保護法施行令の改正による現状変更許可の手続きを迅速に行い、更に円滑な取組を行うことで、奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興を推進する。これにより、観光入込客数が目標値に達するよう、更なる効果的な取組を実施していく。							
外部要因等特記事項									

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標(2) 奈良市の宿泊者数	代替指標(2) 奈良市の宿泊者数【観光庁統計・宿泊旅行統計調査】	目標値			137万人	144万人	152万人	159万人	166万人
	数値目標(2) 115万人 → 166万人 (H23) (H30)	実績値	110万人	127万人	160万人	127万人	150万人		
	寄与度(※):-(%)	進捗度(%)			93%	104%			
	代替指標の考え方または定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		<p>正規の評価指標である「奈良市の宿泊者数」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客調査に基づくものであり、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として観光庁が実施する宿泊旅行統計調査で把握した「奈良市の宿泊者数」による事後評価を行うこととする。</p> <p>認定計画書に記載した数値目標は本特区が目指している「滞在型観光の推進」の達成状況を測るための指標として、奈良市が公表する統計値である「奈良市の宿泊者数」の当年実績を把握するものである。代替指標として観光庁が公表する統計値である「奈良市の宿泊者数」は、正規の評価指標に代えて「滞在型観光の推進」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。</p>						
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		<p>■目標達成の考え方: ・宿泊施設改修の支援・推進や奈良公園の魅力発信を行い、さらに外国人宿泊客の誘客キャンペーン等を行う事で、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を目指す。</p> <p>■目標達成に向けた主な取組: ・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンや大都市での観光PRイベントの実施 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士の充実及びWi-Fi環境の整備</p>							
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等		代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率(実績値)の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<p>■平成27年度の主な取組状況 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンを夏と冬に2回実施し、また大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・宿泊施設改修については、利子補給金制度を活用した金融支援措置を1件実施した。 ・特区通訳案内士については、通訳案内士育成研修を実施し、新たに14名が登録され、合計登録者数が32名(中国語22名、韓国語10名)となった。 ・奈良公園の主要動線上や主要観光施設に整備した「NARA Free-WiFi」のサービスを開始した。</p> <p>■今後の方向性: ・奈良市の宿泊者数は増加傾向で順調に推移しており、利子補給金制度を活用した金融支援措置の利用実績も確認されており、また、外国人観光客の受入環境の充実も確実に進められている。引き続き、奈良公園の魅力発信や外国人宿泊客の誘客キャンペーンを継続し、利子補給金制度の利用促進を行い、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を図りたい。</p>							
外部要因等特記事項									

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■目標に向けた取組の進捗に関する評価

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
評価指標(3) 奈良市の観光消費額	代替指標(3) 奈良市の観光消費額 数値目標(3) 785億円 → 1,109億円 (H23) (H30)	目標値			936億円	970億円	1,017億円	1,063億円	1,109億円
		実績値	737億円	851億円	1,016億円	718億円	1,227億円		
	寄与度(※):-(%)	進捗度 (%)				77%	126%		
代替指標の考え方や定性的評価 ※数値目標の実績に代えて代替指標または定性的な評価を用いる場合		<p>正規の評価指標である「奈良市の観光消費額」は、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査より把握したデータを用いて算出しており、当該調査の公表が翌年の10月頃であることから、評価時点では実績値を把握できない。そのため代替指標として把握した「奈良市の主要観光施設・行祭事等観光入込客数」及び観光庁が実施する宿泊旅行統計調査で把握した「奈良市の宿泊者数」を用いて算出した「【代替】奈良市の観光消費額」により事後評価を行うこととする。</p> <p>認定計画書に記載した数値目標は本特区の目標である「観光の振興」、「滞在型観光の推進」の達成状況を測るための指標として、奈良市が公表する統計値である「奈良市の観光消費額」の当年実績を把握するものである。代替指標の「奈良市の観光消費額」は、正規の評価指標に代えて「観光の振興」、「滞在型観光の推進」の達成状況を測ることが可能であり、本数値目標の代替指標として適切である。</p>							
目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業		<p>■目標達成の考え方: ・奈良公園の様々な資源を「維持」・「利活用」することによる観光振興、また、奈良公園周辺の宿泊客や外国人観光客の受入環境の充実に向けた取組を一体的に進め、観光消費額の増加を目指す。</p> <p>■目標達成に向けた主な取組: ・春日大社境内地の整備、なら燈花会・なら瑠璃絵・若草山焼きの実施、大都市での観光PRイベント、海外での旅行博への出展、Wi-Fi環境の整備、外国人富裕層市場開拓事業など。</p>							
各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等		<p>代替指標については、今後も一定の伸長が想定されるため、過去の本指標に対する代替指標の比率(実績値)の平均値を算出し、この平均値を基に毎年の代替指標の目標値を算出したもの。</p>							
進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性		<p>■平成27年度の主な取組状況 ・春日大社境内地の整備を順調に行い、なら燈花絵、なら瑠璃絵、若草山焼きも実施した。 ・海外での旅行博への出展を4カ国で行い、カンヌ・東京で外国人富裕層開拓事業を実施した。 ・大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・奈良公園の主要動線上や主要観光施設に整備した「NARA Free-WiFi」のサービスを開始した。</p> <p>■今後の方向性: ・奈良市の観光消費額は増加傾向で順調に推移しており、奈良公園の資源の「維持」・「利活用」や外国人観光客の受入環境の充実が確実に行われている。引き続き、観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に行い、観光消費額の増加を目指していきたい。</p>							
外部要因等特記事項									

※寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------





目標達成に向けた実施スケジュール  
 特区名：奈良公園観光地域活性化総合特区

事業4	奈良公園への宿泊客の受入環境の充実にに向けた取り組みの実施	H26年度												H27年度												H28年度												H29年度												H30年度																																																																																																																																															
		年 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																			
	奈良公園道先案内人の設置	(体制構築(H25.11))																																																												運営																																																																																																																																			
	おもてなし研修の実施																																																																																																																																																																																																
	奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンの実施	夏キャンペーン → 冬キャンペーン → 夏キャンペーン → 冬キャンペーン → 夏キャンペーン → 冬キャンペーン →																																																																																																																																																																																															
	大都市での観光PRイベント	●●●●●●												●●●●●●												●●●●●●												●●●●●●												●●●●●●																																																																																																																																															
	地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用による宿泊施設の改修の支援	PRハング等作成																																																																																																																																																																																															
	金融機関指定申請 各団体等への周知及び受付	● 計画認定												● 金融機関指定申請・指定																																																周知・受付・実施																																																																																																																																			
事業5	奈良公園への外国人観光客の受入環境の充実にに向けた取り組みの実施																																																																																																																																																																																																
	多言語コールセンターの開設	●												●												●												●												●												●												●												●																																																																																																											
	外国語表記の案内看板の設置																																																																																																																																																																																																
	官民一体となった現地プロモーションの実施	● 香港、韓国												● 韓国												● 香港												● 米国												● 中国												● 台湾												● 仏												VJ事業で適宜実施																																																																																																											
	海外での旅行博への出展	● MATTIA出展												● SITV出展												● TITF出展												● タイ・シンガポール												● 台湾												● 仏												● スペイン												● 仏												● シンガポール												● タイ												● 仏												VJ事業で適宜実施																																																											
	ファミトリップの実施	● 台湾												● 韓国												● 香港												● マレーシア												● 東アジア												● 東南アジア												VJ事業で適宜実施																																																																																																																							
	国際会議の誘致促進																																																																																																																																																																																																
	Wi-Fi環境の整備	●												●												●												●												●												●												●												●												●												追加整備、保守・運用																																																																																			
	奈良県観光レップ設置事業																																																																																																																																																																																																
	旅行商品着地オペレーター設置事業																																																																																																																																																																																																
	外国人富裕層市場開拓事業	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●																																																																							
	奈良県外国人観光客交流館の開設	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●																																															
	地域活性化総合特別区域通訳案内士																																																																																																																																																																																																
	①制度の周知・業者選定	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●																																																											
	②受講生の募集	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●																																			
	③研修の実施	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●																							
	④口述試験	●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●												●											
	⑤特区通訳案内士登録																																																																																																																																																																																																

■規制の特例措置を活用した事業の実績及び評価

地域活性化事業の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
地域活性化総合特別 区域通訳案内士育成 等事業 (観光B001)	数値目標(1) 数値目標(2) 数値目標(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年8月10日から9月15日にかけて受講生募集を実施した。</li> <li>平成27年10月4日から平成28年1月24日にかけて13日間の研修を実施した。</li> <li>平成28年2月13日に口述試験を実施した。</li> <li>平成28年3月1日に合格発表を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生募集を行ったところ、36名の応募があった。</li> <li>受講生36名に対し、13日間の研修を実施した。</li> <li>口述試験には26名が受験し、中国語16名、韓国語4名が合格した。</li> <li>合格者の内、平成27年度に特区通訳案内士として登録を行った者は中国語10名、韓国語4名となっている。(平成28年3月31日現在)</li> <li>今後は特区通訳案内士としての活動を開始し、外国人観光客への受入環境の充実に寄与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画認定を受けた平成26年度以降、中国語が計22名(H26:12名、H27:10名)、韓国語が計10名(H26:6名、H27:4名)の特区通訳案内士が誕生した。</li> <li>奈良県では、経済成長が著しい中国からの観光客が多いという特色があるため、本事業において中国語22名の特区通訳案内士が誕生したことにより、今後の目標達成に向け、効果が見込まれるものと考えている。</li> </ul>	規制所管府省名:国土交通省観光庁 <input checked="" type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められる <input type="checkbox"/> 特例措置の効果が認められない ⇒要件の見直しの必要性あり <input type="checkbox"/> その他 <特記事項> 特例ガイド登録者数は確実に増え、中国語特例ガイドが増加することによって、地域の特色である中国からの訪日外国人旅行者を中心とした外国人受入体制の強化が図られており、特例措置の効果が認められる。 今後は、ガイドの活躍機会の創出等に取り組むとともに活動実態の把握に努め、より一層の質の向上を目指した育成・活用事業にして頂きたい。

■国との協議の結果、全国展開された措置を活用した事業の実績及び評価

全国展開された措置の名称	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
該当なし					規制所管府省名: _____ <参考意見>

■国との協議の結果、現時点で実現可能なことが明らかとなった措置による事業の実績及び評価

現時点で実現可能なことが明らかとなった措置の概要	関連する数値目標	事業の実施状況	直接効果 (できる限り数値を用いること)	自己評価	規制所管府省による評価
該当なし					規制所管府省名: _____ 規制協議の整理番号: _____ <参考意見>

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

## ■ 財政・税制・金融支援の活用実績及び自己評価（国の支援措置に係るもの）

財政支援措置の状況									
事業名	関連する数値目標	年度	H23	H24	H25	H26	H27	累計	自己評価
該当なし		財政支援要望	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
		国予算(a) (実績)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
		自治体予算(b) (実績)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
		総事業費 (a+b)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	

税制支援措置の状況									
事業名	関連する数値目標	年度	H23	H24	H25	H26	H27	累計	自己評価
該当なし		件数							

金融支援措置の状況									
事業名	関連する数値目標	年度	H23	H24	H25	H26	H27	累計	自己評価
地域活性化総合 特区支援利子補 給金	数値目標(2) 数値目標(3)	件数	—	—	—	—	1	1	<p>平成26年6月27日に利子補給制度が計画認定を受け、平成26年11月28日に株式会社南都銀行が総合特区支援利子補給金融機関として指定された。宿泊客の受入環境の充実に向け、県独自の融資制度等様々なメニューと併せ積極的な周知等に取り組んでいる。</p> <p>主に本利子補給制度の対象になると考えられる特区内での大型案件については、平成27年度は1件の金融支援措置を行った。今後も、金融支援措置について数件の問合せがあるため、引き続き開業等に向けて事業者を支援するとともに、当該制度の積極的な活用を図る。</p> <p>なお、中小企業者等の中・小規模案件は、これまで県独自の融資制度の利用が中心となっているが、本利子補給制度も加え選択肢が広がったことにより、更なる促進を見込んでいる。</p>

## ■ 上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

地域独自の取組の状況及び自己評価（地域における財政・税制・金融上の支援措置、規制緩和・強化等、体制強化、関連する民間の取組等）

■財政・税制・金融上の支援措置

財政支援措置の状況					
事業名	関連する数値目標	実績		自己評価	自治体名
創業支援資金	数値目標（2）	平成27年度	適用件数 1件	当該制度は、宿泊施設を創業する事業者が無利子、無保証料で融資を受けられる制度で、「奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金」の「利子（既支払分についてはキャッシュバック）」「保証料」を撤廃した、更に利用しやすい融資制度としている。	奈良県
税制支援措置の状況					
事業名	関連する数値目標	実績		自己評価	自治体名
宿泊施設の新設、増設にかかる優遇税制	数値目標（2） 数値目標（3）	平成27年度	適用件数 1件	当該制度は、平成18年度より実施しており、規模や定員等、一定要件を満たした宿泊施設の新設、増設した事業者に対して、不動産取得税、事業税を軽減するもので、これまで特区域域内に宿泊施設を新設した2件の事業者に適用している。 平成27年度は1件の適用があり、今後も、近年中に対象規模の立地が複数件予定されていることから、本制度の更なる適用を見込んでいる。	奈良県
金融支援措置の状況					
事業名	関連する数値目標	実績		自己評価	自治体名
奈良の飲食店・宿泊施設育成支援資金利子補給金	数値目標（2） 数値目標（3）	平成27年度	融資件数 5件	当該制度は、開業や施設改修される事業者が低利で融資を受け、特に宿泊施設については、支払利子を更にキャッシュバックすることで、実質無利子で融資を受けられる制度となっている。平成27年度は、奈良公園を訪れる観光旅客の受入環境充実のため、県独自の本融資制度を活用して、特区域域内の宿泊施設（5件）が施設改修し、宿泊施設の魅力向上を図った。	奈良県

■規制緩和・強化等

規制緩和					
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）		自己評価	自治体名
該当なし					
規制強化					
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）		自己評価	自治体名
該当なし					

その他						
取組	関連する数値目標	直接効果（可能であれば数値を用いること）		自己評価	自治体名	
宿泊施設事業者へのアドバイス	数値目標（2） 数値目標（3）	平成27年度 平成27年度	相談対応件数 専門家派遣回数	67件（10社） 3回（2社）	公益財団法人奈良県地域産業振興センターにより、宿泊施設の創業、開業に伴う事業計画の策定や経営課題の解決支援として、経験豊かな専門家のアドバイスを受けることができる「よろず支援拠点」や「専門家派遣制度」を設けており、事業者が抱える専門的な課題にも対応できるよう取り組んでいる。	

■体制強化、関連する民間の取組等

体制強化	該当なし
民間の取組等	該当なし

■上記に係る現地調査時指摘事項

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■(参考)認定計画書に記載した数値目標に対する実績

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
数値目標(1)	目標値(※2)				1,540 万人	1,615 万人	1,691 万人	1,766 万人	1,842 万人
	実績値	1,314 万人	1,332 万人	1,380 万人	1,414 万人				
寄与度(※1):100(%)	進捗度(%)				92%				
評価指標(1) 奈良市の観光入込客数	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>■目標達成の考え方 ・奈良公園の自然、歴史・文化、公園資源の「維持」・「利活用」を行い、観光振興を目指す。</p> <p>■目標達成に向けた主な取組: ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全 ・平成27、28年に実施される春日大社の式年造替、平成30年の興福寺中金堂落慶を契機とした社寺等との連携による誘客キャンペーンの展開 ・官民が連携した継続的な誘客イベントの開催、誘客キャンペーンの実施</p>							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)	<p>実績値については、奈良市が実施する奈良市観光入込客数調査による。 目標値については、平城京遷都1300年記念を開催した平成22年の実績(1,842万人)を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。</p>							
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	<p>■平成26年度の主な取組状況 ・奈良公園の植栽の適切な管理、春日山原始林の保全、Wi-Fi環境の整備、電線地中化の整備、春日大社式年造替に向けた誘客キャンペーン等を着実に実施した。 ・奈良市の観光入込客数については、目標値を下回ったものの、実績値は前年度よりも上昇していることから、順調に取組の効果が得られていたと判断できる。</p> <p>■今後の方向性 ・以上の結果も踏まえ、今後は文化財保護法施行令の改正による現状変更許可の手続きを迅速に行い、更に円滑な取組を行うことで、奈良公園の資源の維持・利活用による観光振興を推進する。これにより、観光入込客数が目標値に達するよう、更なる効果的な取組を実施していく。</p>							
	外部要因等特記事項								
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析	<p>進捗度等について、代替指標と大きな乖離はない。</p>							

※1 寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

※2 数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。

また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]
--------	---------------

■(参考)認定計画書に記載した数値目標に対する実績

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
数値目標(2)	目標値(※2)				161万人	170万人	179万人	187万人	196万人
	実績値	136万人	143万人	142万人	151万人				
寄与度(※1):100(%)	進捗度(%)				94%				
評価指標(2) 奈良市の宿泊者数	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>■目標達成の考え方: ・宿泊施設改修の支援・推進や奈良公園の魅力発信を行い、さらに外国人宿泊客の誘客キャンペーン等を行う事で、宿泊客の受入環境の充実による滞在型観光の推進を目指す。</p> <p>■目標達成に向けた主な取組: ・地域活性化総合特区支援利子補給金制度の適用 ・奈良公園周辺への宿泊客誘客キャンペーンや大都市での観光PRイベントの実施 ・地域活性化総合特別区域通訳案内士の充実及びWi-Fi環境の整備</p>							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)	<p>実績値については、奈良市が実施する奈良市宿泊客数調査による。 目標値については、平城京遷都1300年記念を開催した平成22年の実績(196万人)を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。</p>							
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	<p>■平成26年度の主な取組状況 ・奈良公園一帯におけるWi-Fi環境の整備や大都市での観光PRイベント等を実施した。 ・金融措置である利子補給金制度や規制の特例措置である特区通訳案内士の計画認定を受けた。 ・奈良市の宿泊客数については、目標値を下回ったものの、実績値は前年度よりも上昇していることから、順調に取組の効果が得られていたと判断できる。</p> <p>■今後の方向性: ・利子補給金制度については、平成26年11月28日に(株)南都銀行が指定金融機関となり、募集を開始した。また特区通訳案内士は、育成研修により18名の通訳案内士が登録された。奈良公園を訪れる外国人旅行者数や宿泊者数は増加傾向であるため、利子補給金制度の活用や通訳案内士による受入環境の充実を行い、滞在型観光の推進を更に図っていく。</p>							
	外部要因等特記事項								
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析	進捗度等について、代替指標と大きな乖離はない。							

※1 寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

※2 数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。

また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]



■(参考)認定計画書に記載した数値目標に対する実績

		当初(平成23年)	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
数値目標(3)	目標値(※2)				1,379 億円	1,448 億円	1,517 億円	1,586 億円	1,655 億円
	実績値	1,172 億円	1,202 億円	1,229 億円	974 億円				
寄与度(※1):100(%)	進捗度(%)				71%				
評価指標(3) 奈良市の観光消費額	目標達成の考え方及び目標達成に向けた主な取組、関連事業	<p>■目標達成の考え方: ・奈良公園の様々な資源を「維持」・「利活用」することによる観光振興、また、奈良公園周辺の宿泊客や外国人観光客の受入環境の充実に向けた取組を一体的に進め、観光消費額の増加を目指す。 ■目標達成に向けた主な取組: ・春日大社境内地の整備、なら燈花会・なら瑠璃絵・若草山焼きの実施、大都市での観光PRイベント、海外での旅行博への出展、Wi-Fi環境の整備、外国人富裕層市場開拓事業など。</p>							
	各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等(※2)	<p>実績値については、奈良市が実施する奈良市の観光入込客数及び宿泊客数調査及び原単価を基に算出している。 目標値については、平城京遷都1300年記念平成22年の実績(1,655億円)を平成30年の目標とし、平成23年の実測値を基準として、段階的に各年度の目標値を定めたものである。</p>							
	進捗状況に係る自己評価(進捗が遅れている場合は要因分析)及び次年度以降の取組の方向性	<p>■平成26年度の主な取組状況 ・春日大社境内地の整備を順調に行い、なら燈花絵、なら瑠璃絵、若草山焼きも実施した。 ・海外での旅行博への出展を行い、カンヌ・京都で外国人富裕層開拓事業を実施した。 ・大都市での観光PRイベントを首都圏と九州でそれぞれ年に2回ずつ実施した。 ・奈良公園の主要動線上や主要観光施設に「NARA Free-WiFi」を整備した。 ・奈良市の観光消費額については、前年に比べて大幅に下回った。観光入込客数や宿泊者数は前年度より上昇していることから、観光消費額の減少は、原単価の大幅な低下によるものと思われる。なお平成27年の原単価は、平成25年並に戻ったため、今後は当初計画通りの結果が期待できる。 ■今後の方向性: ・奈良市の観光入込客数や宿泊者数は順調に推移しており、奈良公園の資源の「維持」「利活用」や外国人観光客の受入環境の充実が確実に進められている。引き続き、観光振興及び受入環境の充実による滞在型観光の推進を一体的に行い、観光消費額の増加を目指していきたい。</p>							
	外部要因等特記事項								
	代替指標による評価又は定性的評価との比較分析	<p>観光客数全体からみた宿泊者数の割合について、代替値よりも実績値の方が低下していた。これを受け、原単価の高い宿泊者数の観光消費額が低下したため、進捗度に若干の差異が生じたと考えられる。</p>							

※1 寄与度:一つの評価指標に対して複数の数値目標がある場合、それぞれの数値目標が評価指標に与える寄与度を記入してください。

※2 数値目標に係る目標値について、各年度の目標設定ができない場合は、目標達成予定年度のみ数値目標及び実績値の両方を記載し、目標達成予定年度以外の年度については、当該年度の実績値のみを記載してください。

また、その場合は「各年度の目標設定の考え方や数値の根拠等」の欄に、当初設定した数値目標に係る目標設定の考え方や数値の根拠を記載してください。

■現地調査時の指摘事項及びそれに対する取組状況等

[指摘事項]	[左記に対する取組状況等]